

1 天満宮と牛 筑紫（九州）において荒牛を鎮められた縁故により、北野神社では牛を神使としてしている。

2 十二支の牛の郷土玩具がある。

3 牛の地名史―牛と天神 富山県の牛騎り天神像は有名である。

4 風土記逸文―九州に神功皇后備前の沖合を過り給うた時、大牛が出て身を覆そうとしたので、住吉明神がその角をとって投げ倒したので、その地を牛軛だと言付けて、後牛窓となったという地名がある。

5 牛に騎った仏像神像

- (1) 大阪府八尾市志紀長吉神社蔵
- (2) 奈良県春日神社蔵

## 「ローマは一日にして成らず」

琵琶湖流域下水道事業の追憶

野洲 宮川 稔

流入域全体の環境整備に向けて

表題の諺は、昭和五十七年（一

九八二年）三月二十七日に挙行された湖南・中部浄化センター通水式の「工事報告」に入れた一節である。（正式通水は同年四月一日になっている。）

琵琶湖流域下水道事業は琵琶湖総合開発事業（以下「琵琶総」と云う。）の重要事業であって、県民の生活環境と琵琶湖の環境保全のナショナルミニマムの施設として実施されたものである。具体的にはご承知のとおり、琵琶湖全周を取り囲む下水道施設の整備と高度処理によって、その目的を達成するもので、特に琵琶湖の水質保全と環境整備のためには、湖内および湖辺域のみならず、流入域全体の環境整備が求められている。

この計画の遠大性に鑑み、県議会においては計画当初からしばしば、この計画完了には何年必要か、例えば県北端の木之本、余呉へは何年後になるか、との真剣な質問が関連審議の度毎に出されたことである。

### 供用開始第一号の通水式前後

勿論、当初の琵琶総計画十ヶ年では、全体計画の三〇パーセント程度が見込まれているものであり、

したがって敢えて「工事報告」には、表題の一節を入れて、供用開始第一号の浄化センターの通水式にあたり、今後の覚悟を鮮明にしたかったのである。

小生は昭和五十二年（一九七七年）四月、土木部河川開発課長から同部下水道建設課長を拝命し、同五十三年（一九七八年）四月同部下水道担当の技監を命じられ、この通水式を迎えたのである。

通水式は三月末の年度末のこととして県議会の閉会日と重なり、他議事の議会審議の遅延により、知事、議長の来場が遅れ、この浄化センター建設に伴う「環境影響調査委員会」の委員長をお願いし、ご尽力を戴いた京都大学の元学長をされた奥田東名誉教授をはじめ、来賓各位にお待ち願ひ、大いに恐縮した記憶が残っている。

因みに供用開始は当時の大津、草津、守山の三市と栗東、中主、野洲の三町であった。

小生はこの通水式後三十一日付をもって現役を卒業し、新設の県下水道公社の常務理事として浄化センターの供用開始と通水管路の維持管理を、県からの委託業務として専従することとなった。

難局を乗り越え普及率全国七位

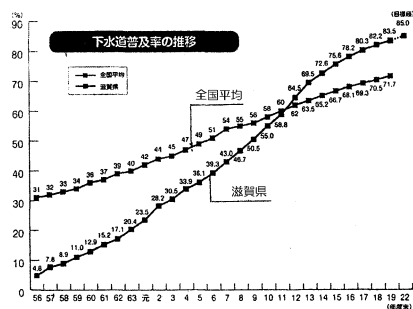
思えば、小生が下水道に赴任した昭和五十二年度（一九七七年）は、難航していた浄化センター設置に伴う草津市及び地元矢橋地区との要望事項の処理と、用地補償交渉の最終段階にあり、漸く中断していた建設工事が動かせる状況になりつつあった。

しかし「琵琶総」は近畿圏千四百万人の生活に直結する国家的な世紀の大事業であり、また大気汚染水質保全をはじめとする環境問題より、多岐にわたる転機が激化した時代でもあった。

「琵琶総」としての下水道事業は、

■下水道の普及状況

平成10年度までの、滋賀県の下水道普及率は83.5%となり、全国第7位です。また、下水道類似施設を含めた汚水処理人口普及率は96.7%で全国第4位です。  
県では、平成22年度末までに下水道普及率を85%とすることを目標にしています。



平成九年（一九九七年）三月末をもって「琵琶湖」事業そのものが終結したが、以後も鋭意進められ、平成二十一年（二〇〇九年）三月末において県内普及率八四・七パーセント（全国都道府県中第七位）であり、併せて高度処理人口普及率もドイツ、スウェーデン、オランダにならぶ国際的にもトップレベルにあると思われる。

### 広域四処理区とキメ細かな単独公共下水道

昭和四十七年（一九七二年）「琵琶湖」がスタートして以来、下水道事業のみならず琵琶湖の主要事業が直面した「琵琶湖総合開発計画工事差し止め請求訴訟」をはじめ、

湖南中部処理区



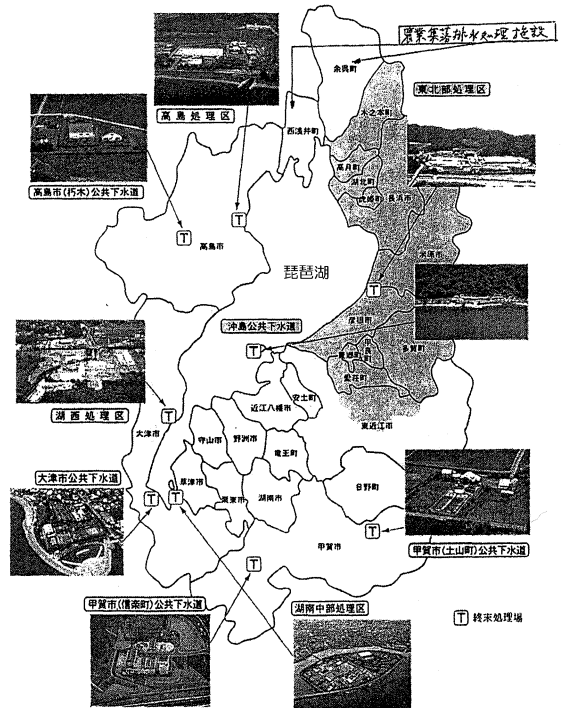
▲湖南中部浄化センター

県として環境行政の柱ともなる「琵琶湖の富栄養化防止に関する条例」等への対応、並びに議会からの厳しい要請事項への資料作成と説明に加え、工事進捗に伴う設計、施工への技術的課題への処理等、五十二年四月から七月までの四ヶ月間の毎夜零時を越す残業など、関係職員の昼夜をわかつた旺盛な任務遂行により、難局を乗り切ってきた感じが強い。

県内下水道事業は、県が主体となっている広域的な流域下水道としての四処理区、即ち湖南、中部、湖西、彦根、長浜、高島とこれに関連する市町の公共下水道がある。これに加え、市町の単独公共下水道として、昭和四十四年（十九六九年）に供用を開始した大津市の単独公共下水道があり、このほか大津市としては藤尾地区の下水を京都市山科区の石田処理場に公共下水道として供用されている。また近江八幡市の沖の島、旧朽木村には特定環境保全公共下水道、並びに旧土山町、旧信楽町にそれぞれ単独公共下水道が施工され、全県的にキメ細かな配慮の計画となっている。

### 滋賀県の下水道区域図

平成21年3月末現在、24市町で下水道が利用されています。滋賀県内の下水道処理場の位置と各々の処理（予定）区域は下図のとおりです。このうち、「湖南中部処理区」「湖西処理区」「東北部処理区」「高島処理区」が琵琶湖流域下水道とその流域関連公共下水道の処理区域になっています。



### 更なる処理水質の高度化を

なお昭和四十七年下水道事業開始以来の推移については、小生の下水道建設課長当時の課長補佐を勤められ、以後下水道計画課参事、湖南・中部流域下水道事務所長、下水道建設課長、同技監、土木次長等下水道事業の中枢を担い、業務遂行に、また多面的な問題調整に当たって来られた田中伊三雄氏の「いま琵琶湖の下水道を顧みて」（日本下水道新聞掲載）の報文に詳しく述べられているので、一読給われれば幸甚である。

終わりになりましたが、県内下水道

整備が今日の誇るべき到達点に到ったのは、初期段階より当時の建設省下水道部、同土木研究所下水道部、下水道事業団の関係の方々との親身になったご指導、ご援助の賜物であり、また県庁内及び関係市町の首長・担当者の方々のご協力を戴いた結果であると深く感謝を申し上げます。

下水道事業は施設整備と併せ、処理水質の高度化は環境問題として、ますます社会的要請が高まると共に、汚泥処理についても有効利用等技術開発の期待が大きい。

「ローマは一日にして成らず」